

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

## 想定内の暮らしと現実

突然の訪問者に困惑する

方が多い。家は代表的な日常空間だが、人を招き入れるときの我が家は、日常の延長だと言えるだろうか？

予定された訪問者は、片付けられた非日常空間で迎え、本来の我が家はこれだとご案内している。

リフォームの依頼がある時、暮らしぶりの確認にご自宅を訪問させていただくのだが「すぐは困ります。一週間後にしてください。」

いやいやもっと後がいいかな」と、家の片付けを開始しようとしている様子が伺える。暮らしぶりからリフォームのポイントを考えるために伺うのに、外向きの様子だけを教えていただいても、最適プランはできないのだが……。

外での仕事と違って、家の出来事は、ほぼ「想定内」で進んでいるはず。それなのになぜ家は散らかり、突然の訪問者にいやな顔をされる方が多いのだろうか？

どうやら「本来はこうではない。本当の自分は綺麗好き」と思っ気持ちと、日々の暮らしにミスマッチがあるのだから。そしてそれがリフォームに向かわせてい

る。

収納を増やせば問題解決というほど、ことは簡単ではない。物の収納もまずは想定しなければいけない。新築時

にこのクロゼットを作ったものの、数年たつといろいろな物を押し込んだ納戸

に変わっているお宅も多い。リフォームで収納を増やしても、押し込む場所が増えるだけだ。

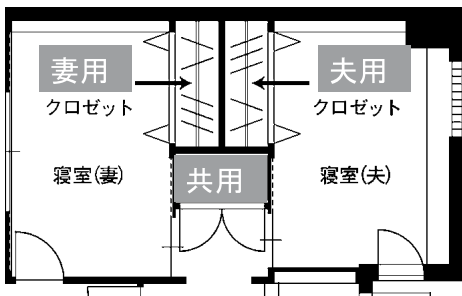
最近、夫婦共存への知恵の一つに、「所有者で分ける収納法」を提唱している。

物の管理を「共用収納」「夫の収納」「妻の収納」と分けて、平面図の中にも単に物入と書くのではなく、それぞれ

の管理者が分かる記入をすすめている。「家事は妻に任せている」、「物の管理は妻の仕事」とおっしゃる方もいらっしゃるが、家事の分担をしたくなる、あるいはせざるを得ない時がある

かもしれない。そんな時、物の管理は、家事分担としてほとんども入りやすい分野だ。背の高いところの物入れは夫を管理者にすれば、届かないからと

### 所有者で分ける収納法



床に置くということがなくなるし、夫にとっては秘密の場所にもなる。ゴルフバッグ置き場も、バッグだけでなく、予備ボール・靴・ウェアも置いておけば、いつでもレッツプレイゴルフと飛び出せるだろう。自己管理も楽しいものだ。

実際の日常と理想の生活を近づけるためには、物の処分もさることながら、想定内で家族が物を管理分担することが大事だろう。

私自身は、リフォーム前のお宅に散々お伺いしてきたせいか、モデルルームの中で暮らししているようなお宅よりも、少し人間くさい香りがする家が居心地よく感じてしまうこの頃だ。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。